

■ゴーストガール肉体改造アクメ堕ち

新世代のVRネットワーク『LINK VRAINS』内で密かに活躍する謎の美女、ゴーストガール。様々な企業から秘密裏に依頼を受け、ネット上のあらゆる情報を収集する『電腦トレジャーハンター』として今日も電腦空間にログインしている。

今日の目的は情報収集。といってもいつものように自分でハッキングするのではなく、ある人物との取引で情報を得る。

ネット上でも一般人がまずアクセスしない場所で待ち合わせ……探し求める情報を持つ少年と接触する。

【……あなたが、ゴーストガールさん……？】

「ええ。待たせちゃったかしら？ だったらごめんなさいね♪」

可愛らしい笑顔を見せることで魅了し、相手を自分のペースに引き込んで取引を進めていく。といっても、わざわざ魅了する必要もなく少年は最初から緊張気味だ。なぜなら今回の取引でゴーストガール側が出す報酬がやや特殊だからだ。

【えと……これが、あの会社のデータの抜け穴です】

「本物みたいね。……でも、それは持ってる情報の一部よね？」

【それは、まあ……依頼されたのはこれだけですし、その、これ以上の提供はちょっと……】

「いいのよ、確認させてもらっただけ♪ こんな貴重な情報が手札の一つに過ぎないなんて、あなた見かけによらずスゴいのね♪」

【いえ、それはどうも……あの、それで、報酬は……】

「わかってるわ、焦らないで」

少年が報酬を確認。その際、異様に朱くなるが、それは報酬内容が理由だ。

ゴーストガールがこの取引で差し出す報酬……それは金やデータではなく、その肉体だ。

企業データと、電腦セックスによる快楽。それが今回の取引で扱うブツというわけだ。

いざ取引と言う名の性行為が始まるとなり、少年は硬くなりながら恐る恐る尋ねる。

【あのっ、こちらが後払いで、いいんでしょうか……？】

「いいのよ。あなたにも是非、アレを体験してもらいたいもの♪」

対し、余裕たっぷりのゴーストガール。魅惑の美女を名乗る茶目っ気を持ち、男を惑わす美貌を誇る彼女だが、その外面に劣らず内面も磨き抜かれている。緊張する少年を固有のデータ空間……ホテルルームを模した部屋に案内し、手際よく準備を進めながら電腦セックスを説明する。

「このツールでアバターのデータを弄って、感度を上げるの。そうすれば、現実の数倍の精力と快感を得られるわ。あとは、そうね……妊娠の心配がないから、避妊具も必要ない。つまり、生でやれるの♪」

【あ……た、たしかに、ゴムとか、必要ないですね！】

「VR空間だからこそ可能な、現実よりも強い快楽を得られる電腦セックス……面白そうだと思わない？」

【は、はい……！】

「ちなみに……満足できなければ、情報は渡してもらわなくてもいいわよ♪」

【え?! それは悪いというか……】

「もちろん、必ず満足させてみせるけどね♪」

敢えて不利な条件を出すことで、少年に大きな期待を抱かせる。喉をゴクリと震わせた少年を優しく押し倒すと、ゴーストガールはライダースーツを模した衣装のチャックを下ろし、輝く玉のような肌を露わにする。

【よ、よろしくお願いします……!】

「ええ、こちらこそよろしく♪ 今夜はいっぱい愉しみましょうね♪」

妖艶に微笑みながら、ゴーストガールは内心ほくそ笑む。

(当然データはいただくわ……あなたを快楽で失神させ、持っている全てのデータをね♪)

……そう、ゴーストガールは最初から、依頼した以上の情報を頂くつもりだ。

有能な男に接触し、その美貌を餌に釣り上げる。そしてベッドの上のテクニクで翻弄し、陥落……いや、失神にまで追い込むことで隙だらけにし、所有するデータを全て頂く。

快楽を得られ、金を生む情報も手に入る。趣味と実益を兼ねた取引方法というわけだ。

「じゃ、早速……若いオチンポ、いただきます……♥」

舌なめずりし、魅惑のトレジャーハンターは嗜虐心を剥き出しにして少年に跨った……

——……

————……

プシュ! プシャァアッ!

「んっ♡♡♡ んんんうううううううっ♡♡♡」

取引……電脳セックス開始から数分後。

ゴーストガールは、苦悶の嬌声と共に股間から愛液を噴き出していた。

絶頂するのはこれで何度目だろうか。シーツを掴み、尻を震わせながら戦慄く女トレジャーハンターを見て、少年が微笑む。

【いやー、ゴーストガールさんにこんなに気持ち良くなってくれて嬉しいよ】

震えるゴーストガールに対し、少年は落ち着いた余裕の態度。セックス前とは打って変わっており、立場が逆転していた。

(有り得ないっ♡ この空間内では、私はイクことはないはずなのに……っ♡♡)

こんなはずではなかった。いつもなら男を翻弄し、快樂に参って震えるのを自分が見下ろしている。今回もそうなるはずだったが、実際はまるで逆となっている。

少年の上に跨り、リードし続けて精根果てるまで搾り取るつもりだった。だがいざ始まってみれば、少年のいかにも初体験な雰囲気が一変。明らかに経験を積んだ性戯で快樂を与えられ、絶頂に次ぐ絶頂に追い込まれる。気付けば一方的に愛撫される展開となり、今では四つん這いにされ膣壁を滅茶苦茶にかき回され上に潮噴きまでしてしまう始末であった。

そもそも、ゴーストガールの肉体は感度こそ上げていても、データ改造により不本意な絶頂はしないはずなのだ。

つまり少年は密かにハッキングを行いゴーストガールが絶頂できるようにしていた。搾精するつもりがまんまと餌食になったわけだが……

(それでも……前戯だけでこんなに感じるなんて♥♥ い、異常だわっ♥♥ 一体何をされたというの……っ♥♥)

既に涙でぐしゃぐしゃに乱れた美貌に、少年が解を出す。

【あれ、まだ気付かないかなあ……じゃ、いいもの見せてあげるよ】

少年の操作と共に空間上に現れる画面。そこには、電腦空間にログインしたため現実世界で意識を失った女性が、取引しているのとは別の少年によって愛撫されている様子が映されていた。女性は眠ったままだが、少年の愛撫を受けたためか、ビクビクと痙攣をし続けている。

「なっ?! これは……私……?」

【そうだよー♪】

愛撫され、快樂反応を見せている女性はゴーストガールの正体……別所エマであった。

小瓶や錠剤なども同時に映されており、エマはいつの間にかそれを飲まされていたようだ。

そこまで見たことで気付かされる。少年が取引している間、少年の協力者が現実世界のエマに媚薬を使い、強制的に発情させたのだ。

電腦空間と現実。両方で強制的に発情させることで、手練手管のゴーストガールを一方的に慰み者にできたというわけだ。

ただこの場合、なぜ少年たちがエマの居場所を突き止めているのか、という疑問が残るが。

「有り得ないわ! いつの間に、現実の私に辿り着くなんて……あひっ♥♥」

【それでも色々と努力したんだよね……ま、カンペキにデータを守るなんて不可能ってこと】

身バレ……現実での正体を知られることは、電腦トレジャーハンターとしては致命的だ。このような事態を避けるためアクセスログなどは極力 処理してきたはずなのだが……上には上がいるということなのか。

(そんな……この私が、こんな子たちなんか……)

【というか、必ず満足させてくれるんだよね? ボクらはこのやり方じゃないと満足できないから、何も問題な

いよね♪】

信じ難い事実には戦慄する間にも少年たちの手が次の責めを開始する。
種明かししたことで、少年二人は敢えて同じ動きをする。電腦空間と現実、エマとゴーストガールが共に、股間へ指を挿れられる。

「やめ……」

じゅぷ！　じゅくじゅくじゅくじゅくうっ！

「あああああああっ♡♡」

侵入した指が第二関節を曲げた状態で激しく上下。火照り切った牝肉は強い刺激もすんなりと受け入れ、簡単に牝の声を出されてしまう。

（なんなの、この快樂っ♡♡　電腦セックスを超える快樂だなんてえっ♡♡）

現実と電腦空間、両方の身体で責めを受け、言わば二倍の責めを受けている。もちろん快感も二倍だ。快樂の極致だと思っていたものを大きく上回る官能に、ゴーストガールは成す術がない。

じゅくっ！　じゅぷっ！　じゅぶぶっ！

「ひあっ♡♡　はっ♡♡　まっ♡♡　またっ♡♡」

【おっと、ここでアタックフェイズ中断っと】

「はへっ？！♡♡」

陰核の裏側を刺激され、またも絶頂する——そう思われた時に少年が責め手を止め、不覚にも手マン絶頂を期待していたゴーストガールは情けない声を出してしまう。

【そういえば、まだマスクとってなかったからね……さて、ゴーストガールの素顔解禁～♪】

「あ……やめへえ……♡♡」

快樂に蕩けた身体で抵抗できるはずもなく、鼻まで隠していたマスクが取られ素顔が公開される。そこにはだらしなく伸び、止めどなく溢れる唾液で妖しく光る唇があった。

【お、現実と同じで美人だね～。ていうか、やっぱアへってる♪　そんなに気持ち良かった？】

肉悦に呆けた表情。それが明らかになり、少年にクスクスと嗤われる。
マスクを付けているからこそ、今までは快樂に蕩けた表情をしても隠せていたが……
いざ表情が晒されたことで、快樂で紅潮していた顔が羞恥で更に朱くなる。

【現実ではほぼ無表情なのに、ネットの中ではこんなにアへってるって思うと間抜けだよ～♪】

「く……う……♡」

（私が……こんな辱めを受けるなんて……！　悔しいのに……逆らえない……♡）

【さて、念入りにほぐしたし……そろそろ挿れよっか】

「っ?!」

屈辱にひしがれる余裕もない。少年がいよいよ挿入しようとしているのだ。

少年が見せたペニスは電腦空間と現実の二人とも、その風貌に見合わぬ猛々しい肉剛。通常状態であればともかく、完全に性欲のスイッチが入った今、こんな巨根を挿れられれば途方もない快楽を叩き付けられてしまう。

四つん這いのまま這って逃げようとするが、今は持ち前の機動力も全く発揮できず……後ろから腰を掴まれ、狙いを付けられる。

「ま……待って♥♥ お願い♥♥ データもいないから♥♥ それだけは……」

ずっばおおおっ!!

「おほおおおおおおおっ♥♥♥」

ブシュッ!! ブシュウウウッ!!

【うわ、挿れただけでスゴイキっぷり……はは、現実でも潮噴いてるよ!】

過去の経験にない凶悪な肉突きに、ゴーストガールは全く耐えられず絶頂。即座に牝肉が痙攣し、一層派手に牝潮を撒いてしまう。

更に現実でも同時に犯され、また電腦空間と同様に派手な牝潮を噴き出していた。

散々にアクメさせられ、現実での正体もバレ、更に両方で犯される。屈辱的なはずなのに、快楽が強過ぎて被虐的な欲求が芽生えそうになる。

（電腦世界だけでなく♥♥ 現実でも犯されてるのに♥♥ 気持ち良くなるなんて♥♥ こんなことお……♥♥）

【さ、動くよ? せいぜい失神しないでねー】

既に限界近いゴーストガールに構うことなく少年がゆっくりと動く。膣道を押し広げ、ずっしりとした重量感を誇る肉幹が前後することでカリ首に髪を抉られていく。

「やめ……」

ずりゅっ!

「くひっ♥♥ やめなさっ♥♥」

ずりゅうっ!

「いひひひひひっ♥♥」

注挿動作の一つ一つが堪らない肉悦を生み、気を抜けば失神してしまいそうなほどだ。だがそこは経験豊富な女性としての意地があり、間抜けな声を出しながらも必死に耐え抜く。

【お、イクの我慢してる? いいね〜、お姉さんが……特にゴーストガールさんみたいなビッチがイクの我慢してるのって最高だよね!】

「が♥ 我慢してるわけじゃ♥♥ ないわっ♥♥ 大したことないから♥♥ イケないだけよっ♥♥」

ぱんっ! ぱんぱんぱんぱんっ!

「おぐっ♥♥ い、今までは手加減っ♥♥ 手加減してっ♥♥ してたけどっ♥♥ こんなの大したことなひっ♥♥ 私がほ、本気にならない内に♥♥ 手を引いた方がいいわよおっ♥♥」

犯されながら、せめてもの強がりを行い放つ。しかし……

「所詮お子様チンポなのよっ♥♥ 早くっ……♥♥ サレンダーしなさいっ♥♥」

ごぶんっ！！

「お う っ ♥♥♥」

ブシュ！！ プッシャアッ！！

少年の力強い肉突き。それにより子宮を突かれ、強気が消し飛んで眼を剥いてしまう。

また一つ強い潮噴きまで見せてしまい、強がりながらもイカされる無様を自ら演出する形になってしまった。

【今のイキ方がいいね、超無様な感じが最高だよ♪】

「お……っ♥♥ か、勘違いしないで♥♥ 今のは♥♥ イッてなんか♥♥」

【そうそう、もっと強がってよ。じゃないと愉しめないからさあ！】

ずばんっ！ ごつうんっ！

「ふおひいんっ♥♥ つ、強がりなんかじゃ♥♥ あつまたっ♥♥♥ イッ♥♥♥ ち、違うの♥♥♥ イッてない♥♥♥
イッてないいいいいいいいい♥♥♥」

精神だけは反抗を続けるゴーストガールの態度を気に入り、少年がピストンを速める。何度も絶頂させられた
膣肉はたちまちアクメの波に覆われ、もはや一突きごとに軽く絶頂しているような状態だ。

アクメの波に晒されては、そのたびに絶頂を否定し続ける。

「イッてない♥♥ あ♥♥ イカないっ♥♥ こんなっ♥♥ こんなチンポなんか(に)いつ♥♥」

【締め付けも流石だね……そろそろ一発目出すよ！ もちろん『両方共』中にね！】

「ひいっ?!♥♥ や、やめなさい♥♥ 現実♥♥ 現実では♥♥ 中はダメえっ♥♥」

絶頂し続けたことで膣道が締め、少年が射精感を込み上げさせる。そして欲望のまま膣内射精するつもりらしく、流石にこれは首を振って拒絶する。

膣内射精は電腦セックスだからこそ許される行為。アバターにはともかく現実の身体にも強制的に、しかもこのような形で膣内射精するなど、到底認められない。

何とか阻止しようともがき、ログアウトを試み……

「いい加減にしなさいっ♥♥ それだけは絶対にダメよっ♥♥」

(早く♥ 早くログアウトしないと♥ 中にっ！)

【うるさいなあ、ホントは中に出して欲しいくせにっ！】

ごぶんっ！！ ごりゅううっ！！

「んおおおおおおおっ♥♥♥」

【ほら子宮でアへってるじゃん！ 出すよ、現実と一緒に中出しアクメしろっ！】

「ダメ♥♥♥ ダメええええっ♥♥♥」

(中で♥♥ また大きくなって♥♥ ダメ♥♥ 中に♥♥ 出され——)

ドプッ!!! ゴプッ!!! ドブドプッ!!! ビュルルルルルルルッ!!!

「ああっ♥♥♥ 中っ♥♥♥ 中にiiiiiiiiっ♥♥♥
ダメええっ♥♥♥ イツツクううううううううううううううううっ♥♥♥」

体験版はここまでです。続きは製品版で！